

●学校と保護者との関わり (1人)

代表例：担任と本人（保護者）の折りあい（相性）があわない。

●担任によるセクハラ (1人)

代表例：学級担任によるセクハラ（女子児童たちへの）。

児童の問題

●性に関して (3人)

代表例：男子生徒が性交について、ふざけた言葉で質問したり、保健室で、性交についての話を大声でする。/性に対しての簡単な思い、行動、その後の心の問題。/男子児童からの性に関する相談。

●性被害 (1人)

代表例：性被害に遭ってしまった。

●交際の相談 (2人)

代表例：恋愛相談など人間関係についての悩み。/異性関係。

●友人関係 (1人)

代表例：友達関係の悩み。仲間外れにされる。友達の様子が冷たいなど。

●児童のこころとの関係 (2人)

代表例：精神的不安に陥って身体症状や行動にでてくるケースなど様々だった。/主訴が「おぼけがみえる」「霊がみえる」を繰り返す…複数事例あり。

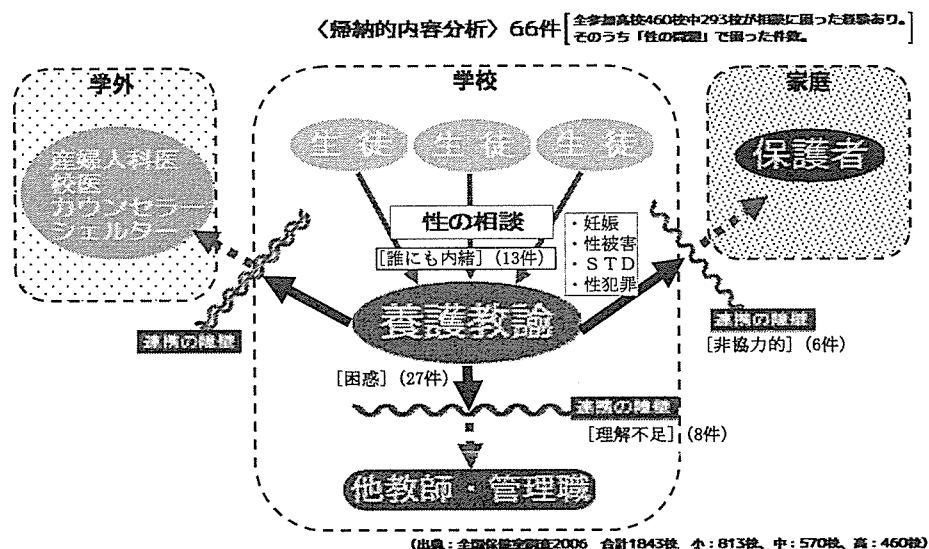
●体の変化 (1人)

小学生で生理が1か月も続くという相談や、生理があまりにも重いという相談。

●家庭問題 (1人)

代表例：ネグレクト。保護者が精神疾患（うつ）。

性に関する相談で、対応に困った事例（自由記載）  
（高等学校養護教諭）



## 全国保健室調査結果のまとめ（2006年）

一部県教育委員会、全国養護教諭連絡協議会との共同研究

注：調査結果のうち、性に関する問題に関連する項目のみ抜粋

### ◆基本的分析

- (1) **養護教諭の複数配置状況**：「常勤の複数配置」は小学校1%、中学校4%、高校22%。複数配置対象の大規模校での配置状況は小学校8割、中学校8割以上、高校では半数割れ。高校での養護教諭の複数配置は極めて不十分。
- (2) **養護教諭の勤務状況**：「昼食をとれないことがよくある」が高校で約1割、「トイレに行けないことがよくある」は小中高とも1割前後にも達する。養護教諭の多忙な状況を提示。
- (3) **保健室来室者（児童生徒）**：一日平均小学校15人、中学校20人、高校28人と相当数。来室理由は「身体的不調」が最多。「相談」は中高では6-8割。
- (4) **相談業務（児童生徒）**：一日の相談件数の平均は2-4件、一回の相談所要時間は13分-28分。相談内容は「友達関係」が最多。「恋愛・交際」は中学校20%、高校40%、「性の問題」は中学校では5%程度、高校では15%に増加。
- (5) **相談業務（児童生徒以外）**：頻度の高い相談相手は、同僚から4-5割、管理職から1割以上、保護者から1-2割で、児童生徒以外の相談も実施。
- (6) **相談業務の自己評価**：「あまり機能していない」+「まったく機能していない」は全体の1-3割で上級の学校ほど相談業務不全。理由は校種にかかわらず、「十分な時間がない」「プライバシーを守れる空間がない」等の外的要因。

### ◆相談業務不全意識と関連する要因（2変量解析）

#### <本人関連因子>

- ・ 年齢が若いこと（粗 OR>2）
- ・ 経験年数が10年未満（粗 OR>2）
- ・ 現任校の勤務年数が1年未満（粗 OR>2）
- ・ 仕事にやりがいを感じていないこと（粗 OR>2）

#### <学内役割因子>

- ・ 授業担当の経験がないこと（粗 OR=2）
- ・ 学内で養護教諭の意見が尊重されていないこと（粗 OR>2）

#### <学内外の個人連携因子>

- ・ 同僚からの相談頻度が低いこと（粗 OR>2）
- ・ 管理職からの相談頻度が低いこと（粗 OR>2）
- ・ 保護者からの相談頻度が低いこと（粗 OR>2）

#### <学外機関連携因子>

- ・ 医療機関と連携できなかった（粗 OR<2）
- ・ 児童相談所と連携できなかった（粗 OR<2）
- ・ スクールカウンセラーと連携できなかった（粗 OR<2）

#### <学内因子>

- ・ 児童数が多いこと（粗 OR<2）
- ・ 学級崩壊しているクラスがあること（粗 OR<2）

## 1-2-② 小学生・中学生・高校生の保護者

### 【 調査目的 】

小学生・中学生・高校生の保護者のH I V/S T D関連知識、高校生の性関係への態度、性教育への要望に関する現状を把握する。

### 【 調査者 】

(主体) A県教育委員会

(協力) 厚生労働省若者等H I V社会疫学研究班

本研究班主任研究者(木原雅子)、A県医師会学校医会長、A県医師会産婦人科医会長、A県教育委員会保健給食管理課指導主事、A県中学校教諭、A県高等学校教諭、A県養護教諭研究会代表、A県健康対策課班長、A県教育委員会健康体育課長を委員として構成される『A県性教育実践調査研究事業連絡協議会』が設置され、A県教育委員会と本研究班の共同で調査が実施された。

### 【 対象と方法 】

(1) 調査実施時期：2006年3月

(2) 対象：A県の公立高等学校(定時制・通信制を除く)、公立中学校、小学校の保護者

(3) 調査方法

サンプリング方法：

- ① 高等学校(22校/34校)(1年生・2年生・3年生保護者)
  - ・A県普通科高校リスト、職業科高校リストより無作為抽出
- ② 中学校(48校/138校)(1年生・2年生・3年生保護者)
  - ・割当て法(quota sampling)
  - ・A県30市町村から学校数に比例して選出
  - ・各学校から1学年を無作為抽出
- ③ 小学校(51校/308校)(5年生・6年生保護者)
  - ・割当て法(quota sampling)
  - ・A県30市町村から学校数に比例して選出

### 実施方法

無記名自記式質問紙調査、学校で児童生徒に配布し、児童生徒が自宅に持ち帰り、保護者に手渡す。保護者が記入後、児童生徒が学校に持ち帰り、先生に提出。学校ごとにまとめて教育委員会に送付。調査に先立ち、学校関係者により、調査の目的方法を説明した手紙同封。記入後は添付のシールで各自封印し、回収した。

### (4) 質問紙と調査項目

- (1) 小学生保護者用質問紙：自記式で6ページ、回答所要時間は約10分間、主質問17問、付問含めて29問で。質問紙の構成は、①性別・年齢、②子どもの学年、性別、③家族一緒に食事をする頻度、④親子の会話頻度、⑤親子の意思疎通状況、⑥子どもの夢への認知、⑦しかり方、褒め方、⑧エイズ/性感染症関連知識、⑨子どもの性知識、⑩高校生の喫煙、飲酒、性行動に対する態度、⑪性に関する教育への要望など(資料8)。
- (2) 中学生保護者用質問紙：自記式で6ページ、回答所要時間は約10分間、主質問17問、付問含めて29問で。質問紙の構成は、①性別・年齢、②子どもの学年、性別、③家族一緒に食事をする頻度、④親子の会話頻度、⑤親子の意思疎通状況、⑥子どもの夢への認知、⑦しかり方、褒め方、⑧エイズ/性感染症関連知識、⑨子どもの性知識、⑩高校生の喫煙、飲酒、性行動に対する態度、⑪性に関する教育への要望など(資料9)。
- (3) 高校生保護者用質問紙：自記式で6ページ、回答所要時間は約10分間、主質問17問、付問

含めて 29 問で。質問紙の構成は、①性別・年齢、②子どもの学年、性別、③家族一緒に食事をする頻度、④親子の会話頻度、⑤親子の意思疎通状況、⑥子どもの夢への認知、⑦しかり方、褒め方、⑧エイズ/性感染症関連知識、⑨子どもの性知識、⑩高校生の喫煙、飲酒、性行動に対する態度、⑪性に関する教育への要望など（資料 10）。

## (5) 調査参加者の内訳

### ①小学生保護者参加者数

調査に参加した小学生保護者総数は 5,860 人（回収率 91.7%/6390 人）で、そのうち有効回答者 5,785 人（有効回答率 98.7%）、無効回答者 75 人（内訳：不完全な記入 3 人、性別不明のため集計から除外したもの 22 人、データ入力ミス 50 人）であった。小学校 5 年生・6 年生の参加者の性別内訳は、男性保護者 623 人、女性保護者 5,162 人であった。年齢の平均は男性保護者 42.3 歳±5.8 で、女性保護者 39.7 歳±4.4 であった。

### ②中学生保護者参加者数

調査に参加した中学生保護者総数は 3,800 人（回収率 66.4%/5,724 人）で、そのうち有効回答者 3,749 人（有効回答率 98.7%）、無効回答者 51 人（内訳：性別不明のため集計から除外したもの 20 人、データ入力ミス 31 人）であった。中学生保護者の参加者の性別内訳は、男性保護者 431 人、女性保護者 3,318 人であった。年齢の平均は男性保護者 44.8 歳±5.9 で、女性保護者 42.1 歳±4.5 であった。

### ③高校生保護者参加者数

調査に参加した高校生保護者総数は 3,165 人（回収率 54.7%/5,785 人）で、そのうち有効回答者 3,124 人（有効回答率 98.7%）、無効回答者 41 人（内訳：性別不明のため集計から除外したもの 17 人、データ入力ミス 24 人）であった。高校生保護者の参加者の性別内訳は、男性保護者 364 人、女性保護者 2,760 人であった。年齢の平均は男性保護者 47.5 歳±5.5 で、女性保護者 44.8 歳±4.2 であった。

## (6) 統計学的分析

カテゴリー変数の検定にはカイ二乗検定を用い、変数の分類には主成分分析を、多変数の交絡の調整には多重ロジスティック回帰分析法を用いた。計算には、SPSS ver. 12 を使用した。なお、検定は時間の制約上、一部に限定して行い、検定を行ったもののみ、その結果を記載した。また、多重仮説検定は行っていないので、注意が必要である。

## (7) 倫理的配慮

倫理的配慮として、質問紙の表紙には、匿名性を保つこと、データは統計処理され個人が特定されることはないことを明記した。また、調査開始に際し、この調査は強制でないこと、答えたくなかったら答えなくてもよいこと（白紙の提出可）、記入しなかったことあるいは、調査を拒否しても何ら不利益を被らないことを質問紙の表紙に記載し、教諭より口頭でも説明した。また、調査終了後は、対象者自身により、添付のシールで封をし、児童生徒に手渡し学校へ提出。学校では開封せず、入力事務局へ郵送。

## 【調査結果】

### A. 基本的分析（性別集計）

\*結果解釈上の注意：小学校、中学校、高校の保護者の回収率に差があり、小学校では90%を超えていたのに対し、中学校、高校では6割、5割と減少していた。特に中学校/高校の保護者の回答にはバイアスがかかっている可能性があるため結果の解釈には注意を要する。小中高とも回答者の性別は約9割が女性保護者で占められているため、参加した男性保護者は、男性保護者の代表ではなく何らかのバイアスがかかっている可能性が高いと考えられるため、男性保護者の結果の解釈にも注意を要する。（例：特に教育に関心のある男性保護者が回答した等の偏り。）

#### (1) 家庭生活・親子関係

##### ◆家族一緒に食事頻度（表1）

小学生・中学生・高校生の保護者に家族一緒に食事をする頻度を尋ねた（表1）。「毎日一緒に食事をする」家庭は、小学校では50-55%、中学校では43-46%、高校では36%であり、子どもの年齢の上昇とともに、家族一緒に食事頻度が減少していることが示された。また、「一緒に食べることがない」と回答した家庭が、小学校で1%前後、中学校で2%前後、高校では4%と多数ではないが、保護者の仕事の事情にもよるが、子どもと一緒に食事を摂ることのない家庭が少なからず存在していた。

表1. 家族一緒に食事をする頻度

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	一緒に食べることはない	5	0.8	70	1.4
	月1回くらい	7	1.1	45	0.9
	月2回くらい	11	1.8	94	1.8
	週1回くらい	36	5.8	422	8.2
	週2回くらい	77	12.4	788	15.3
	週3回以上	143	23.0	1186	23.0
	毎日	342	54.9	2542	49.2
	不明	2	0.3	15	0.3
	合計	623	100.0	5162	100.0
中学生の保護者	一緒に食べることはない	8	1.9	65	2.0
	月1回くらい	4	0.9	51	1.5
	月2回くらい	12	2.8	43	1.3
	週1回くらい	39	9.0	315	9.5
	週2回くらい	53	12.3	520	15.7
	週3回以上	112	26.0	881	26.6
	毎日	199	46.2	1430	43.1
	不明	4	0.9	13	0.4
	合計	431	100.0	3318	100.0
高校生の保護者	一緒に食べることはない	14	3.8	100	3.6
	月1回くらい	13	3.6	64	2.3
	月2回くらい	11	3.0	57	2.1
	週1回くらい	35	9.6	336	12.2
	週2回くらい	51	14.0	465	16.8
	週3回以上	104	28.6	745	27.0
	毎日	131	36.0	983	35.6
	不明	5	1.4	10	0.4
	合計	364	100.0	2760	100.0

### ◆親子の会話頻度（表 2）

親子の会話頻度を尋ねた（表 2）。親子で「よく話をする」家庭は、男性保護者、小中高では、82%、72%、58%と 8 割から 6 割未満まで大きく減少するが、女性保護者では 92%、86%、83%、子どもの年齢が高くなっても高い会話頻度を維持しており、男性と女性で大きな差が観察された（ $P<0.001$ ）。

表 2. 子どもと話をする頻度

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	まったく話をしない	0	0.0	5	0.1
	ほとんど話をしない	3	0.5	16	0.3
	たまに話をする	108	17.3	405	7.8
	よく話をする	511	82.0	4727	91.6
	不明	1	0.2	9	0.2
	合計	623	100.0	5162	100.0
中学生の保護者	まったく話をしない	2	0.5	5	0.2
	ほとんど話をしない	6	1.4	11	0.3
	たまに話をする	113	26.2	433	13.1
	よく話をする	308	71.5	2858	86.1
	不明	2	0.5	11	0.3
	合計	431	100.0	3318	100.0
高校生の保護者	まったく話をしない	4	1.1	7	0.3
	ほとんど話をしない	13	3.6	25	0.9
	たまに話をする	135	37.1	435	15.8
	よく話をする	210	57.7	2285	82.8
	不明	2	0.5	8	0.3
	合計	364	100.0	2760	100.0

### ◆親子の意思疎通の程度（表 3）

「自分の子どもと心が通じていると思うか」を尋ねた（表 3）。「親子で心が通じていると感じている」と答えた保護者は、小学校では男性 51%、女性 52%、中学校では男性 37%、女性 42%、高校では男性 35%、女性 43%と、子どもが小学生に比べ中学生高校生になると親子の意思疎通の程度が減少するが、特に男性保護者の減少が大きく、男性と女性で大きな差が観察された（ $P<0.001$ ）。

表 3. 子どもとの意思疎通できていると思うか

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	そう感じる	315	50.6	2703	52.4
	どちらかといえばそう感じる	268	43.0	2206	42.7
	どちらかといえばそう感じていない	32	5.1	196	3.8
	そう感じていない	3	0.5	35	0.7
	不明	5	0.8	22	0.4
	合計	623	100.0	5162	100.0
中学生の保護者	そう感じる	158	36.7	1397	42.1
	どちらかといえばそう感じる	222	51.5	1668	50.3
	どちらかといえばそう感じていない	41	9.5	205	6.2
	そう感じていない	8	1.9	24	0.7
	不明	2	0.5	24	0.7
	合計	431	100.0	3318	100.0
高校生の保護者	そう感じる	128	35.2	1186	43.0
	どちらかといえばそう感じる	184	50.5	1363	49.4
	どちらかといえばそう感じていない	41	11.3	167	6.1
	そう感じていない	8	2.2	30	1.1
	不明	3	0.8	14	0.5
	合計	364	100.0	2760	100.0

#### ◆子供の夢を知っているか（表4）

「自分の子どもがどういう夢を持っているか知っていますか」を尋ねた（表4）。「子どもの夢を知っている」保護者は、小学校では男性37%、女性49%、中学校では男性33%、女性40%、高校では男性33%、女性45%で、全体では3・5割の保護者が子どもの夢を知っていたが、子どもの年齢が高くなると減少していた。

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	知っている	229	36.8	2552	49.4
	持っていると思うが何か知らない	263	42.2	1548	30.0
	もっていないと思う	66	10.6	557	10.8
	持っているかどうか知らない	60	9.6	448	8.7
	不明	5	0.8	57	1.1
	合計	623	100.0	5162	100.0
中学生の保護者	知っている	140	32.5	1320	39.8
	持っていると思うが何か知らない	195	45.2	1173	35.4
	もっていないと思う	44	10.2	462	13.9
	持っているかどうか知らない	46	10.7	331	10.0
	不明	6	1.4	32	1.0
	合計	431	100.0	3318	100.0
高校生の保護者	知っている	120	33.0	1241	45.0
	持っていると思うが何か知らない	159	43.7	958	34.7
	もっていないと思う	48	13.2	274	9.9
	持っているかどうか知らない	33	9.1	259	9.4
	不明	4	1.1	28	1.0
	合計	364	100.0	2760	100.0

#### ◆子どもの叱り方（表5）（複数回答）

小中高とも「小学校（幼少期）時代、何か悪いことをしたときの子どもの叱り方」を尋ねた（表5）。最も多かったのが、「口で注意した」で、小中高の順に、男性保護者では79%、72%、66%で、女性保護者は85%、81%、78%と8-9割であった。2番目に多かったのは「たたいたことがある」で、小中高の順に男性保護者では51%、47%、37%で、女性保護者では49%、46%、45%と4-5割であった。口で注意するのは女性保護者が多い傾向が見られたが、たたく等の体罰は保護者に男女差はなかった。また、若い保護者ほど叱ったりたたいたりする割合が高く、その傾向は女性よりも男性保護者の方が顕著であった。

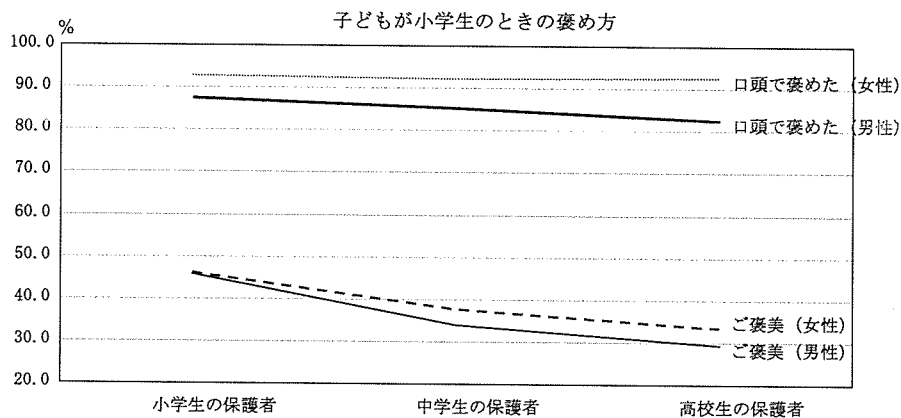
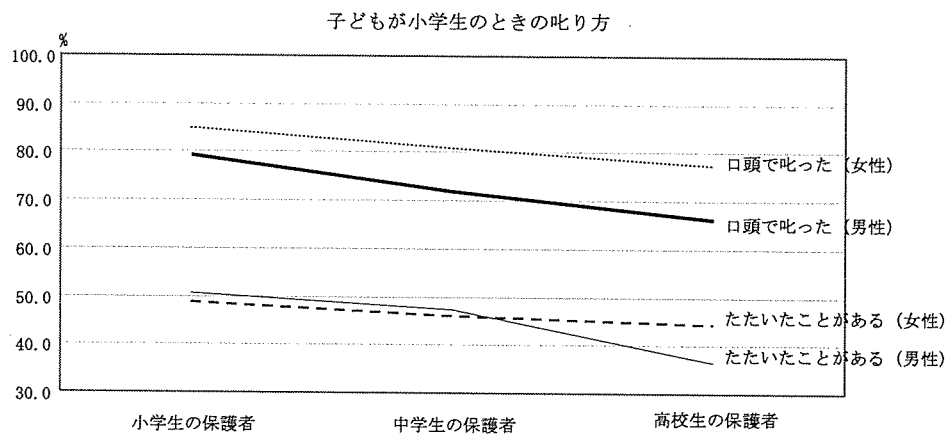
		男性	%	女性	%
小学生の保護者	特に注意しなかった	7	1.1	23	0.4
	口頭で注意した	491	79.3	4374	85.0
	たたいたことがある	313	50.6	2513	48.9
	その他	26	4.2	249	4.8
	子どもが悪いことをしなかった	30	4.8	232	4.5
	わからない	2	0.3	14	0.3
合計	619	100.0	5144	100.0	
中学生の保護者	特に注意しなかった	13	3.0	20	0.6
	口頭で注意した	307	71.9	2675	80.9
	たたいたことがある	202	47.3	1527	46.2
	その他	14	3.3	137	4.1
	子どもが悪いことをしなかった	25	5.9	245	7.4
	わからない	8	1.9	16	0.5
合計	427	100.0	3308	100.0	
高校生の保護者	特に注意しなかった	4	1.1	26	0.9
	口頭で注意した	240	66.3	2135	77.5
	たたいたことがある	132	36.5	1226	44.5
	その他	6	1.7	99	3.6
	子どもが悪いことをしなかった	49	13.5	267	9.7
	わからない	5	1.4	15	0.5
合計	362	100.0	2754	100.0	

◆子どもの褒め方（表6）（複数回答）

小中高とも「小学校（幼少期）時代、何かよいことをしたときの子どもの褒め方」を尋ねた（表6）。最も多かったのが、「口でほめる」で、小中高の順に、男性保護者では87%、86%、83%で、女性保護者は93%、92%、93%と8-9割であった。2番目に多かったのは「ご褒美をあげたことがある」で、小中高の順に男性保護者では46%、34%、29%で、女性保護者では46%、38%、33%と3-5割であった。口でほめるのは女性保護者がやや多く、保護者の年齢による大きな違いはなかった。一方、ご褒美等の物をあげるのは保護者に男女差はなかったが、若い保護者ほど物をあげる割合が高い傾向が観察された。

表6. 子どもが小学生のとき良いことをした時の子どものほめ方

		男	%	女性	%
小学生の保護者	特になにもしなかった	16	2.6	67	1.3
	口頭で褒めた	543	87.4	4776	92.8
	ご褒美をあげたことがある	284	45.7	2377	46.2
	その他	36	5.8	460	8.9
	子どもは良いことをしなかった	4	0.6	8	0.2
	わからない	2	0.3	14	0.3
	合計	621	100.0	5148	100.0
中学生の保護者	特になにもしなかった	19	4.4	74	2.2
	口頭で褒めた	367	85.5	3048	92.2
	ご褒美をあげたことがある	146	34.0	1251	37.8
	その他	17	4.0	197	6.0
	子どもは良いことをしなかった	7	1.6	12	0.4
	わからない	4	0.9	14	0.4
	合計	429	100.0	3307	100.0
高校生の保護者	特になにもしなかった	15	4.2	67	2.4
	口頭で褒めた	298	82.5	2548	92.6
	ご褒美をあげたことがある	106	29.4	920	33.4
	その他	7	1.9	139	5.0
	子どもは良いことをしなかった	5	1.4	14	0.5
	わからない	5	1.4	22	0.8
	合計	361	100.0	2753	100.0





## (2) 知識

### ◆性感染症/エイズ関連知識（表 7）

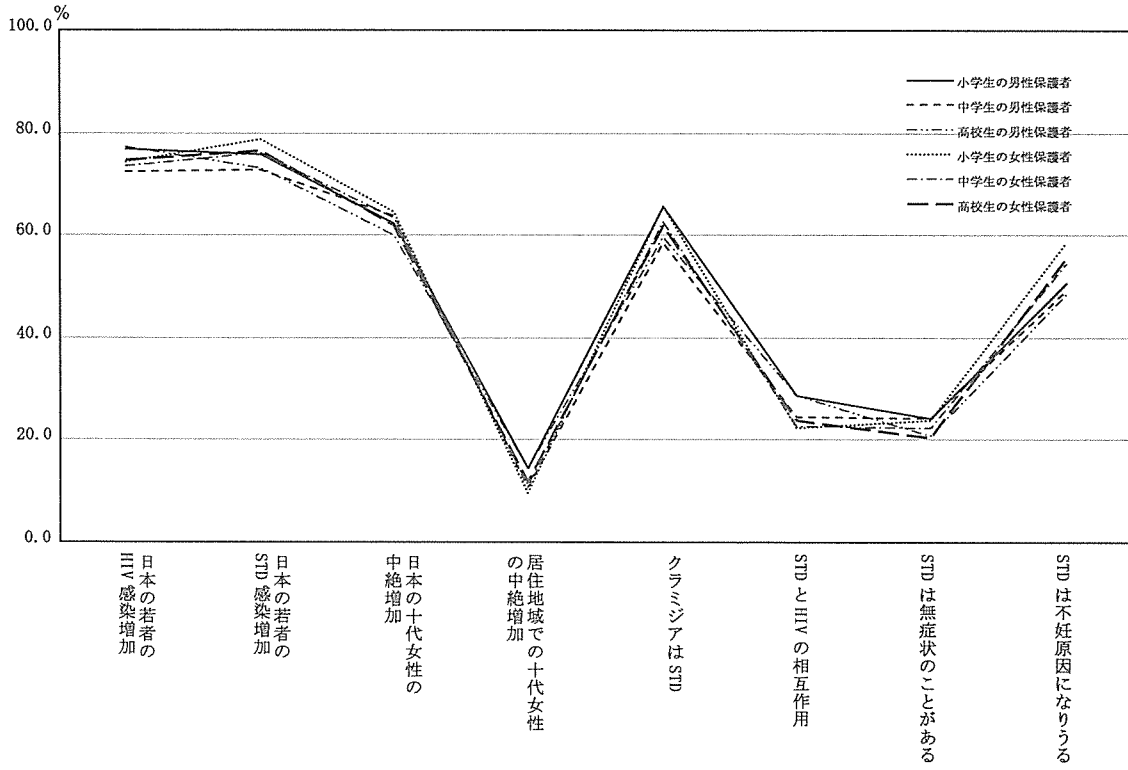
保護者に性感染症/エイズ関連知識を尋ねた（表 7）。各種質問への正解者を小学生保護者、中学生保護者、高校生保護者順に並べた。「①最近、日本の若者でH I V感染者が増加している」は、男性保護者では、77%、72%、77%で、女性保護者では74%、73%、75%と性別や子どもの学年に関係なく7-8割が正解であった。「②最近、日本の若者で性感染症にかかる人が増えている」は、男性保護者では、76%、73%、73%で、女性保護者では79%、76%、77%で性別や子どもの学年に関係なく7-8割が正解であった。「③最近、日本の10代で中絶する人が増えている」は、男性保護者では62%、64%、60%で、女性保護者では65%、64%、62%と性別や子どもの学年に関係はないが、正解率は60-65%とHIVやSTD流行状況に関する質問に比べ中絶率に関しては15%近く低い正解率であった。「④地元の10代女性で中絶が増えている」は、男性保護者では、14%、11%、15%で、女性保護者では10%、11%、12%と性別や子どもの学年に関係なく10-15%の極めて低い正解率であり、地元の若者の中絶率に関してはほとんど情報が普及していないことが示された。「⑤クラミジアは性行為でうつる」は、男性保護者では66%、59%、60%で、女性保護者では66%、63%、62%と性別や子どもの学年に関係なく6割前後が正解であった。「⑥性感染症にかかると何倍もエイズにかかりやすくなる」は、男性保護者では29%、25%、29%で、女性保護者では23%、23%、24%と性感染症罹患とH I V感染の相互作用に関する知識はほとんどが普及していないことがわかった。「⑦性感染症にかかっても症状が出ないことがある」は、男性保護者では24%、24%、21%で、女性保護者では24%、22%、21%と2割程度で性感染症の症状に対する基礎知識もほとんど普及していないことが示された。「⑧性感染症を治療しないと不妊になる可能性がある」は、男性保護者では51%、49%、48%で、女性保護者では59%、55%、56%と半数前後の正解率で、他の性感染症に関する質問よりは認知されていた。

以上、小中高の保護者の性感染症/エイズ関連知識をまとめると、日本全体のHIV/STD流行状況はある程度は把握しているが、自分自身と直接関係する可能性のある地元の情報さらには性感染症についての基本的な知識がほとんど普及していないことが示され、保護者を対象とした講演会や啓発用パンフレットにはこれらの特に不足している情報を含める必要があることが示唆された。

表 7. 性感染症/エイズに関する知識の正解率

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	日本の若者の HIV 感染増加	480	77.0	3833	74.3
	日本の若者の STD 感染増加	473	75.9	4062	78.7
	日本の10代女性の中絶増加	389	62.4	3339	64.7
	居住地での10代女性の中絶増加	90	14.4	495	9.6
	クラミジアはSTD	409	65.7	3396	65.8
	STDとHIVの相互作用	178	28.6	1163	22.5
	STDは無症状のことがある	150	24.1	1234	23.9
	STDは不妊原因になりうる	317	50.9	3031	58.7
中学生の保護者	日本の若者の HIV 感染増加	312	72.4	2435	73.4
	日本の若者の STD 感染増加	314	72.9	2526	76.1
	日本の10代女性の中絶増加	275	63.8	2107	63.5
	居住地での10代女性の中絶増加	46	10.7	368	11.1
	クラミジアはSTD	253	58.7	2082	62.7
	STDとHIVの相互作用	106	24.6	749	22.6
	STDは無症状のことがある	105	24.4	739	22.3
	STDは不妊原因になりうる	213	49.4	1809	54.5
高校生の保護者	日本の若者の HIV 感染増加	281	77.2	2060	74.6
	日本の若者の STD 感染増加	266	73.1	2111	76.5
	日本の10代女性の中絶増加	219	60.2	1706	61.8
	居住地での10代女性の中絶増加	53	14.6	325	11.8
	クラミジアはSTD	217	59.6	1715	62.1
	STDとHIVの相互作用	104	28.6	657	23.8
	STDは無症状のことがある	76	20.9	570	20.7
	STDは不妊原因になりうる	176	48.4	1533	55.5

保護者の性感染症/エイズ関連知識



### (3) 喫煙・飲酒・性行動に対する態度

#### ◆高校生の喫煙についての保護者の態度（表 8）

小学生・中学生・高校生の保護者に「高校生がタバコを吸うことをどう思うか」を尋ねた（表 8）。「かまわないと思っている」「どちらかといえばかまわない」と思っている保護者の割合を調べ、小学生保護者、中学生保護者、高校生保護者順に並べた。男性保護者では 5.8%、7.4%、6.1% で、女性保護者では 2.7%、2.2%、3.3% と男性の方がやや容認の程度が高いが子どもの学年による違いはなく 2-7% 程度であった。

表 8. 高校生の喫煙についてどう思うか？

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	かまわない	13	2.1	53	1.0
	どちらかといえばかまわない	23	3.7	89	1.7
	どちらかといえばよくない	133	21.3	848	16.4
	よくない	446	71.6	4106	79.5
	わからない	4	0.6	24	0.5
	不明	4	0.6	42	0.8
	合計	623	100.0	5162	100.0
中学生の保護者	かまわない	14	3.2	30	0.9
	どちらかといえばかまわない	18	4.2	43	1.3
	どちらかといえばよくない	63	14.6	475	14.3
	よくない	329	76.3	2738	82.5
	わからない	5	1.2	17	0.5
	不明	2	0.5	15	0.5
	合計	431	100.0	3318	100.0
高校生の保護者	かまわない	17	4.7	43	1.6
	どちらかといえばかまわない	5	1.4	46	1.7
	どちらかといえばよくない	42	11.5	385	13.9
	よくない	293	80.5	2266	82.1
	わからない	1	0.3	12	0.4
	不明	6	1.6	8	0.3
	合計	364	100.0	2760	100.0

#### ◆高校生の飲酒についての保護者の態度（表 9）

小学生・中学生・高校生の保護者に「高校生がお酒を飲むことをどう思うか」を尋ねた（表 9）。「かまわないと思っている」「どちらかといえばかまわない」と思っている保護者の割合を調べ、小学生保護者、中学生保護者、高校生保護者順に並べた。男性保護者では 8.2%、10.2%、12.0% で、女性保護者では 4.2%、3.9%、7.6% と全体では 4-12% で、喫煙よりも容認の程度がわずかながら高く、男性の方がやや高く、子どもの学年が高いほど容認が高い傾向が見られた。

表 9. 高校生の飲酒についてどう思うか？

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	かまわない	17	2.7	68	1.3
	どちらかといえばかまわない	34	5.5	151	2.9
	どちらかといえばよくない	168	27.0	1136	22.0
	よくない	396	63.6	3740	72.5
	わからない	4	0.6	28	0.5
	不明	4	0.6	39	0.8
	合計	623	100.0	5162	100.0
中学生の保護者	かまわない	17	3.9	42	1.3
	どちらかといえばかまわない	27	6.3	87	2.6
	どちらかといえばよくない	103	23.9	720	21.7
	よくない	277	64.3	2435	73.4
	わからない	5	1.2	18	0.5
	不明	2	0.5	16	0.5
	合計	431	100.0	3318	100.0
高校生の保護者	かまわない	18	4.9	70	2.5
	どちらかといえばかまわない	26	7.1	141	5.1
	どちらかといえばよくない	102	28.0	666	24.1
	よくない	209	57.4	1863	67.5
	わからない	3	0.8	12	0.4
	不明	6	1.6	8	0.3
	合計	364	100.0	2760	100.0

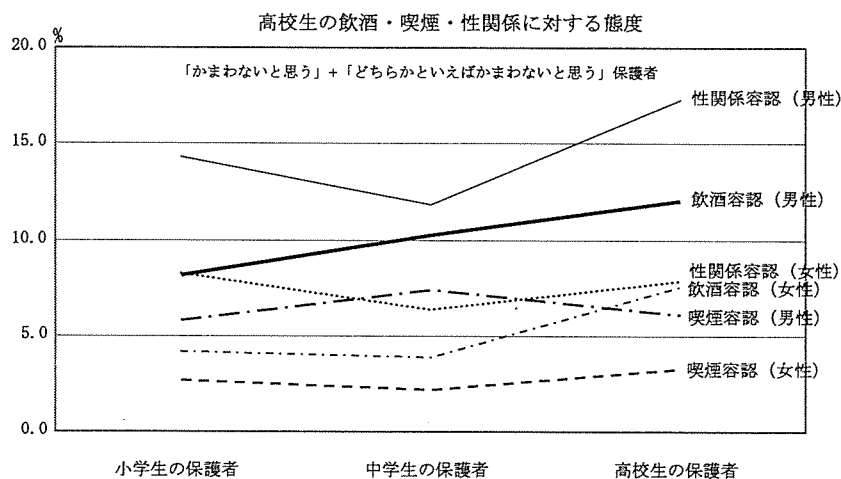
◆高校生の性関係についての保護者の態度（表 10）

小学生・中学生・高校生の保護者に「高校生が性関係を持つことをどう思うか」を尋ねた（表 10）。「かまわないと思っている」「どちらかといえばかまわない」と思っている保護者の割合を調べ、小学生保護者、中学生保護者、高校生保護者順に並べた。男性保護者では 14.3%、11.8%、17.3%で、女性保護者では 8.3%、6.4%、7.9%と男性の方が容認の程度が高く、全体では 6-17%程度と 2 割近くにも達していた。

以上、高校生の喫煙、飲酒、性関係に対する保護者の態度を見ると、3つの問題行動の中では、保護者は性関係に対して、最も容認の程度が高いことが示された。

表 10. 高校生の性関係についてどう思うか？

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	かまわない	34	5.50	138	2.7
	どちらかといえばかまわない	55	8.80	289	5.6
	どちらかといえばよくない	194	31.10	1547	30.0
	よくない	310	49.80	2982	57.8
	わからない	23	3.70	147	2.8
	不明	7	1.10	59	1.1
	合計	623	100.00	5162	100.0
中学生の保護者	かまわない	20	4.60	78	2.4
	どちらかといえばかまわない	31	7.20	132	4.0
	どちらかといえばよくない	119	27.60	915	27.6
	よくない	241	55.90	2075	62.5
	わからない	14	3.20	96	2.9
	不明	6	1.40	22	0.7
	合計	431	100.00	3318	100.0
高校生の保護者	かまわない	33	9.1	95	3.4
	どちらかといえばかまわない	30	8.2	123	4.5
	どちらかといえばよくない	93	25.5	724	26.2
	よくない	191	52.5	1725	62.5
	わからない	10	2.7	74	2.7
	不明	7	1.9	19	0.7
	合計	364	100.0	2760	100.0



#### (4) 性に関する教育についての保護者の考え

##### ◆小学校での性に関する学校教育への要望（表 11）（表 12）

小学校の保護者に「小学校卒業までに学校で教えて欲しいこと」（小学校 5 年生、6 年生）を尋ねた（表 11）。上位 3 つをあげると、「妊娠・出産」が男性 67%、女性 73%、「エイズのこと」が男性 59%、女性 55%、「交際のありかた」が男性 51%、女性 48%であった。さらに「教える必要がないこと」も尋ねた（表 12）。上位 3 つをあげると、「コンドームの正しい使い方」が男性 67%、女性 69%、「性交」が男性 61%、女性 60%、「避妊法」が男性 52%、女性 50%が小学生に教える必要はないと考えていた。

表 11. 小学校での性に関する学校教育への要望

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	性交	202	40.2	1610	38.9
	妊娠・出産	335	66.6	3023	73.1
	人工妊娠中絶のこと	116	23.1	949	22.9
	避妊法	110	21.9	763	18.4
	性病	244	48.5	1612	39.0
	エイズ	295	58.6	2276	55.0
	エイズや性病の予防方法	171	34.0	1187	28.7
	男性用コンドームの正しい使用方法	67	13.3	374	9.0
	交際のありかた	254	50.5	1981	47.9
	合計	503	100.0	4137	100.0

表 12. 小学生に教える必要はないと思う内容

		男性	%	女性	%
小学生の保護者	性交	120	60.9	788	59.4
	妊娠・出産	55	27.9	227	17.1
	人工妊娠中絶のこと	96	48.7	596	44.9
	避妊法	102	51.8	669	50.4
	性病	58	29.4	397	29.9
	エイズ	49	24.9	306	23.1
	エイズや性病の予防方法	67	34.0	445	33.5
	男性用コンドームの正しい使用方法	131	66.5	916	69.0
	交際のありかた	65	33.0	434	32.7
	合計	197	100.0	1327	100.0

◆中学校での性に関する学校教育への要望（表 13）（表 14）

中学校の保護者に「中学校卒業までに学校で教えて欲しいこと」を尋ねた（表 13）。上位 3 つをあげると、「エイズのこと」が男性 79%、女性 79%、「性病のこと」が男性 73%、女性 70%、「交際のありかた」が男性 63%、女性 63%であった。さらに「教える必要がないこと」も尋ねた（表 14）。その中で回答者の半数を超えるものをあげると、「性交」が男性 47%、女性 45%、「コンドームの使い方」が男性 47%、女性 79%が中学生にこれらのことを教える必要はないと考えていた。

表 13. 中学校での性に関する学校教育への要望

		男性	%	女性	%
中学生の保護者	性交	171	45.5	1288	44.5
	妊娠・出産	235	62.5	1653	57.1
	人工妊娠中絶のこと	159	42.3	1278	44.2
	避妊法	177	47.1	1200	41.5
	性病	276	73.4	2030	70.2
	エイズ	296	78.7	2278	78.7
	エイズや性病の予防方法	235	62.5	1616	55.9
	男性用コンドームの正しい使用方法	116	30.9	753	26.0
	交際のありかた	238	63.3	1807	62.5
	合計	376	100.0	2893	100.0

表 14. 中学生に教える必要はないと思う内容

		男性	%	女性	%
中学生の保護者	性交	152	46.9	1185	45.3
	妊娠・出産	186	57.4	1361	52.1
	人工妊娠中絶のこと	196	60.5	1684	64.4
	避妊法	198	61.1	1572	60.1
	性病	247	76.2	2009	76.9
	エイズ	260	80.2	2105	80.5
	エイズや性病の予防方法	257	79.3	2006	76.7
	男性用コンドームの正しい使用方法	153	47.2	1276	78.8
	交際のありかた	113	34.9	889	34.0
	合計	324	100.0	2614	100.0

◆高校での性に関する学校教育への要望（表 15）（表 16）

高校の保護者に「高校卒業までに学校で教えて欲しいこと」を尋ねた（表 15）。上位 3つをあげると、「エイズのこと」が男性 79%、女性 80%、「性病のこと」が男性 77%、女性 74%、「エイズや性病の予防方法」が男性 72%、女性 69%であった。さらに「教える必要がないこと」も尋ねた（表 16）。その中で回答者の半数を超えるものをあげると、「性交」についてが男性 55%、女性 66%が高校生に教える必要はないと考えていた。

表 15. 高校での性に関する学校教育への要望

		男性	%	女性	%
高校生の保護者	性交	131	40.6	846	34.8
	妊娠・出産	160	49.5	1097	45.2
	人工妊娠中絶のこと	152	47.1	1151	47.4
	避妊法	190	58.8	1225	50.5
	性病	249	77.1	1784	73.5
	エイズ	255	78.9	1937	79.8
	エイズや性病の予防方法	233	72.1	1685	69.4
	男性用コンドームの正しい使用方法	123	38.1	757	31.2
	交際のありかた	168	52.0	1303	53.7
	合計	323	100.0	2428	100.0

表 16. 高校生に教える必要はないと思う内容

		男性	%	女性	%
高校生の保護者	性交	48	55.2	350	66.2
	妊娠・出産	18	20.7	82	15.5
	人工妊娠中絶のこと	22	25.3	87	16.4
	避妊法	18	20.7	74	14
	性病	10	11.5	43	8.1
	エイズ	9	10.3	39	7.4
	エイズや性病の予防方法	13	14.9	44	8.3
	男性用コンドームの正しい使用方法	30	34.5	186	35.2
	交際のありかた	36	41.4	145	27.4
	合計	87	100.0	529	100.0

A 県小学生・中学生・高校生の保護者に対する意識調査結果のまとめ（2006 年）

A 県教育委員会との共同研究

注：調査結果のうち、性に関する教育に直接関連する項目のみ抜粋

- (1) 保護者の HIV/STD 関連知識レベル：校種に関係なく同傾向。HIV/STD、中絶の日本全体の疫学情報は 6-8 割が正解。特に知識が不足しているのは、地元の性関連情報と一般の性感染症についての基礎知識。保護者への啓発の必要性。
- (2) 高校生の飲酒、喫煙、性行為への保護者の態度：高校生の飲酒、喫煙、性行為に対する保護者の意識は、3 行為の中で、男女保護者とも性行為に対する容認率が最高値。保護者との連携をとった予防教育（啓発）の必要性。  
(注：2001 年実施の保護者調査では、性行為容認率は極めて低率。保護者の意識変化の可能性。)
- (3) 性教育への保護者の要望：校種にかかわらず、エイズ性感染症に関する教育への要望が高値。一般的に性教育へは肯定的態度。但し、「コンドーム使用方法の指導」「性交」等一部の内容に関しては意見が分かれる。学校で指導の必要がある場合は、保護者への説明必要。



## 1-2-② 小学生の保護者

### 【 調査目的 】

小学生の保護者の性に関する教育への意識の実態を把握する。

### 【 調査者 】

(主体) B 県教育委員会

(協力) 厚生労働省若者等H I V社会疫学研究班

本研究班主任研究者 (木原雅子)、B 県教育庁保健体育課長、B 県医師会理事、B 県立高等学校長、C 市立中学校長、D 市立小学校長、B 県P T A協議会理事、B 県P T A連合会会長、B 県保健福祉部健康対策室長、B 県教育庁指導部指導主事を委員として構成される『B 県性教育実践調査研究事業連絡協議会』が設置され、B 県教育委員会と本研究班の共同で調査が実施された。

### 【 対象と方法 】

(1) 調査実施時期：2006 年 3 月

(2) 対象：B 県の公立小学校 (全学年) の児童の保護者

(3) 調査方法

サンプリング方法：

小学校 (33 校/249 校)

- ・ 割当て法 (quota sampling)
- ・ B 県内 5 地区教育局より学校数に比例して選出

実施方法

無記名自記式質問紙調査、学校で児童に配布し、児童が自宅に持ち帰り、保護者に手渡す。保護者が記入後、児童が学校に持ち帰り、先生に提出。学校ごとにまとめて教育委員会に送付。調査に先立ち、学校関係者により、調査の目的方法を説明した手紙同封。記入後は添付のシールで各自封印し、回収した。

(4) 質問紙と調査項目

小学生保護者用質問紙 (全学年共通)：無記名自記式 3 ページ、回答所要時間は約 5 分間、主質問 23 問。質問紙の構成は、①子どもからの属性、②子どもの学年、③性に関する教育への一般的質問 (性教育の存在認知、授業参観経験の有無、保健便りの認知、性教育内容への関心の有無、性教育の重要性に対する意識、性教育の貢献度) ④性に関する教育内容への要望 (自尊感情の育成、相手への思いやり、人間関係の育成、男女のからだの違い、性器の名称、からだの発育や発達、思春期の不安や悩み、エイズや性感染症とその予防、性交、妊娠や避妊法、性に関する情報への対応、性犯罪、生命の大切さ)、⑤その他の要望 (自由記載) (資料 11)。

(5) 調査参加者数

◆参加者数

調査に参加した保護者総数は 4,869 人 (回収率 68.7%：児童総数 7,087 人) で、そのう

有効回答者 4,751 人（有効回答率 97.6%）、無効回答者 118 人（内訳：属性不明のため集計から除外したもの）であった。参加者の属性別内訳は母（91.7%）、父（7.1%）、祖父母（1.1%）その他（0.1%）であった。参加者の学年別内訳は、1 年生 695 人、2 年生 719 人、3 年生 775 人、4 年生 800 人、5 年生 922 人、6 年生 840 人であった。

#### (6) 統計学的分析

カテゴリー変数の検定にはカイ二乗検定を用い、変数の分類には主成分分析を、多変数の交絡の調整には多重ロジスティック回帰分析法を用いた。計算には、SPSS ver. 12 を使用した。なお、検定は時間の制約上、一部に限定して行い、検定を行ったもののみ、その結果を記載した。また、多重仮説検定は行っていないので、注意が必要である。

#### (7) 倫理的配慮

倫理的配慮として、質問紙の表紙には、匿名性を保つこと、データは統計処理され個人が特定されることはないことを明記した。また、調査開始に際し、この調査は強制でないこと、答えたくなかったら答えなくてもよいこと（白紙の提出可）、調査を拒否しても何ら不利益を被らないことを質問紙の表紙に記載し、教諭より手紙でも説明した。また、調査終了後は、対象者自身により、添付のシールで封をし、児童が学校に持ち帰り学校関係者は内容を見ないことを記載した。

## 【調査結果】

### A. 基本的分析（学年別集計）

\*注意：母以外の回答者が少なかったため、属性別の分析はしていない。調査結果はほとんどが母親の現状で父親・祖父母の考えはほとんど反映されていない。

#### (1) 性に関する教育への一般的質問

##### ◆小学校の性教育の存在認知（表1）

小学校1年生-6年生保護者に「小学校で性教育の授業があることを知っているか」を尋ねた（表1）。「知っている」と回答した保護者は、1-6年の学年順に、93%、94%、97%、97%、98%、96%で、ほぼ全員が小学校で性教育が実施されていることを認知していることが示された。

##### ◆性教育の授業参観の経験（表2）

小学校1年生-6年生保護者に「性教育の授業を参観したことがあるか」を尋ねた（表2）。「性教育の授業参観をしたことがある」と回答した保護者は、1-6年の学年順に、37%、45%、56%、56%、65%、64%で、中学年/高学年では60%前後と相当数の保護者が性教育の授業を参観していた。（注：仮にアンケートには特に性教育に関心のある保護者が回答し、不参加者が一人も授業参観に行かなかったと仮定しても全体の約40%（60%×0.678=40%）が参観していることから、性教育に対する関心はかなり高いものと考えられる。

表1. 小学校で性教育の授業があることを知っているか

		度数	%
小学校1年生	はい	643	92.5
	いいえ	32	4.6
	わからない	20	2.9
	合計	695	100.0
小学校2年生	はい	675	93.9
	いいえ	29	4.0
	わからない	15	2.1
	合計	719	100.0
小学校3年生	はい	754	97.3
	いいえ	12	1.5
	わからない	9	1.2
	合計	775	100.0
小学校4年生	はい	778	97.3
	いいえ	13	1.6
	わからない	7	0.9
	不明	2	0.3
	合計	800	100.0
小学校5年生	はい	907	98.4
	いいえ	9	1.0
	わからない	5	0.5
	不明	1	0.1
合計	922	100.0	
小学校6年生	はい	807	96.1
	いいえ	13	1.5
	わからない	20	2.4
	合計	840	100.0

表2. 授業（性教育）参観の経験

		度数	%
小学1年生	はい	257	37.0
	いいえ	432	62.2
	わからない	4	0.6
	不明	2	0.3
	合計	695	100.0
小学2年生	はい	324	45.1
	いいえ	389	54.1
	わからない	5	0.7
	不明	1	0.1
合計	719	100.0	
小学3年生	はい	433	55.9
	いいえ	332	42.8
	わからない	7	0.9
	不明	3	0.4
合計	775	100.0	
小学4年生	はい	445	55.6
	いいえ	350	43.8
	わからない	5	0.6
	合計	800	100.0
小学5年生	はい	595	64.5
	いいえ	317	34.4
	わからない	8	0.9
	不明	2	0.2
合計	922	100.0	
小学6年生	はい	535	63.7
	いいえ	296	35.2
	わからない	8	1.0
	不明	1	0.1
	合計	840	100.0

◆性教育に対する学校からの情報提供（表3）

小学校1年生-6年生保護者に「性教育に関して保健便り等で学校から連絡をもらったことがあるか」を尋ねた（表3）。「情報をもらったことがある」と回答した保護者は、1-6年の学年順に、38%、38%、46%、49%、50%、50%で、低学年では約4割、中学年/高学年では約半数が学校から性教育に関する情報を提供されていたが、近年の性教育における学校と家庭の連携（保護者の理解向上）を考えると、学校から家庭への働きかけはまだ十分とは言いがたい状況であると考えられる。

◆性教育の内容に関する関心度（表4）

小学校1年生-6年生保護者に「性教育の授業の内容に関心があるか」を尋ねた（表4）。「関心がある」と回答した保護者は、1-6年の学年順に、80%、80%、79%、76%、77%、76%で、学年にかかわらず約8割近い保護者が性教育の授業内容に関心を示していた。

表3. 性教育に関する学校からの情報提供があるか

		度数	%
小学1年生	はい	262	37.7
	いいえ	221	31.8
	わからない	206	29.6
	不明	6	0.9
	合計	695	100.0
小学2年生	はい	273	38.0
	いいえ	221	30.7
	わからない	218	30.3
	不明	7	1.0
	合計	719	100.0
小学3年生	はい	353	45.5
	いいえ	153	19.7
	わからない	263	33.9
	不明	6	0.8
	合計	775	100.0
小学4年生	はい	395	49.4
	いいえ	132	16.5
	わからない	265	33.1
	不明	8	1.0
	合計	800	100.0
小学5年生	はい	457	49.6
	いいえ	140	15.2
	わからない	311	33.7
	不明	14	1.5
	合計	922	100.0
小学6年生	はい	419	49.9
	いいえ	112	13.3
	わからない	300	35.7
	不明	9	1.1
	合計	840	100.0

表4. 性教育の内容に関心があるか

		度数	%
小学1年生	はい	553	79.6
	いいえ	57	8.2
	わからない	78	11.2
	不明	7	1.0
	合計	695	100.0
小学2年生	はい	574	79.8
	いいえ	57	7.9
	わからない	79	11.0
	不明	9	1.3
	合計	719	100.0
小学3年生	はい	609	78.6
	いいえ	71	9.2
	わからない	86	11.1
	不明	9	1.2
	合計	775	100.0
小学4年生	はい	605	75.6
	いいえ	90	11.3
	わからない	93	11.6
	不明	12	1.5
	合計	800	100.0
小学5年生	はい	707	76.7
	いいえ	89	9.7
	わからない	110	11.9
	不明	16	1.7
	合計	922	100.0
小学6年生	はい	637	75.8
	いいえ	80	9.5
	わからない	112	13.3
	不明	11	1.3
	合計	840	100.0